

新 価 値 観 尺 度 の 開 発

三 川 俊 樹 ・ 井 上 知 子 ・ 芳 田 茂 樹 *

An Attempt to Develop the New Values Scale

Toshiki MIKAWA, Tomoko INOUE and Shigeki YOSHIDA*

1. 問 題 と 目 的

本研究では、これまでの「価値」あるいは「価値観」尺度を検討し、現代青年の価値観を測定する尺度を新たに開発した過程を報告する。

(1) 研究の経過

「価値」あるいは「価値観」という用語は広い領域で利用され、その研究の必要性が強調されているにもかかわらず、「価値」あるいは「価値観」の定義や測定方法について、研究者の間に一致したコンセンサスがみられなかった。

このため、井上ら(1993)は、「価値」および「価値観」の定義に関する文献を検討し、その定義を行った。すなわち、「価値」とは、行動のあり方あるいは存在の究極的なあり方に関する個人的・社会的な好選択についての永続的な信念であると定義し、「価値観」とは、この「価値」が個人に内在的に人格化されたものであり、その個人が選択や決定を行う際には、その個人に独自の一貫した判断基準となるものであると定義した。

さらに、「価値」および「価値観」の測定方法に関する文献を概観し、類型論的方法と特性論的方法のそれぞれについて、測定内容と測定尺度を検討した。とくに、測定尺度についてレビューした、Braithwaite & Scott (1991)の総括的検討は示唆的であり、現在広く利用されている主要な価値尺度(15種類)は、次の3つのカテゴリーに分類されるとしている。

- ① 文化的な境界を超越した抽象的・哲学的な問題を用いて価値を測定している尺度
- ② 西欧社会の中で価値があるとみなされる広い範囲の目標、行動の仕方や事態について測定するもの

* 現大手前女子短期大学講師、本学文学部心理学科非常勤講師

新価値観尺度の開発

③ 西欧文化の中で高く評価される個人的、対人関係、道徳的行動に限定したもの

また、これらの価値尺度は、次の7つの下位カテゴリーに分類された。すなわち、「1. 他者の福祉への関心」(Concern for the Welfare of Others)、「2. 望ましい尊敬される地位」(Status Desired or Respected)、「3. 自己コントロール」(Self-control)、「4. 非抑制的快楽」(Unrestrained Pleasure)、「5. 個人主義」(Individualism)、「6. 社会的熟練性」(Social Adeptness)、「7. 宗教性」(Religiosity)である。

一方、新たな価値観尺度を作成するための予備的研究として、三川(1991)が、Super & Nevill(1986)の作成した価値尺度(Values Scale: VS)の日本語版を、高校生および大学生1205名に実施したデータについて、全101項目の因子分析を行い、価値観の構造について検討を行った。その結果、解釈可能な8因子が抽出され、それぞれ『F1. 自己成長性』、『F2. 社会経済的地位』、『F3. 自主性』、『F4. 活動性』、『F5. 対人志向性』、『F6. 他者援助』、『F7. 職業的安定性』、『F8. 社会的評価』と命名された。

この8因子を、Braithwaite & Scottの示した7つのカテゴリーと対応させると、『F1. 自己成長性』は、「3. 自己コントロール」および「5. 個人主義」に対応し、『F2. 社会経済的地位』および『F8. 社会的評価』は「2. 望ましい尊敬される地位」に、『F3. 自主性』は、「4. 非抑制的快楽」に、『F5. 対人志向性』は「6. 社会的熟練性」に、『F6. 他者援助』は「1. 他者の福祉への関心」にそれぞれ対応することが明らかになった。ただし、『F7. 職業的安定性』は、Superらの価値尺度に特有の下位尺度であるため、対応が見られなかったものといえる。また、「7. 宗教性」については、Superらの価値尺度には該当する項目は設定されていなかった。

(2) 新たな価値観尺度の構成

Superらの価値尺度を因子分析した結果をもとに、現代青年の価値観を測定する尺度として、「自己成長性」「社会経済的地位」「自主性」「活動性」「対人志向性」「他者援助」「社会的評価」の7尺度を下位尺度として設定することとした。さらに、Superらの価値尺度には含まれないが、現代青年の価値観を検討する上で重要な領域として、「異性関係・恋愛・結婚」「教育・学歴」「健康」の3領域を設定し、これらを測定する尺度を新たに構成して追加することにした。

したがって、新たに開発する価値観尺度は、「I. 自己成長性」「II. 社会的・経済的地位」「III. 自主性・自立性」「IV. 活動性」「V. 対人志向性」「VI. 他者援助」「VII. 社会的評価」「VIII. 異性関係・恋愛・結婚」「IX. 教育・学歴」「X. 健康」の10尺度で構成されることとなった。そこで、これらの10尺度を適切に表現する項目を決定するために、代表的な尺度を参考に、それぞれの尺度に該当する項目を作成し、最終的には各尺度とも10項目、合計100

項目を選定した。

2. 方 法

(1) 調査用紙の構成

調査用紙は、「価値観に関する意識調査」と題し、フェイス・シートには、所属(学部・学科・学年)、年齢、性別を記入させた。項目は、100項目を尺度順に配列した。

教示は、項目内容が被検者にとってどの程度重要かを質問し、「非常に重要である」から「まったく重要でない」までの6段階で評定させることにした。すなわち、「次にあげたことは、あなたにとってどのくらい重要なことですか。あなたにもっともあてはまるところの数字を○で囲んでください」と教示し、「1 まったく重要でない」「2 ほとんど重要でない」「3 あまり重要でない」「4 やや重要である」「5 かなり重要である」「6 非常に重要である」のうちから1つを選択させた。

(2) 調査時期・調査対象

調査は、1993年1月に、本学学生を対象に、一斉配布によって無記名で行った。フェイス・シートの記入もれ、二重回答などの回答不備を除き、有効データとなった被検者数は、男子368名、女子332名、合計700名であった。

3. 結果と考察

(1) 価値観尺度(100項目)の項目分析

男女を込みにした700名のデータをもとに、項目分析を行った。その結果は、表1にまとめて示してある。

まず、尺度ごとに、それぞれの項目における回答の選択肢(「1 まったく重要でない」~「6 非常に重要である」)への反応率を求めた。

次に、各尺度ごとに上位一下位分析を行った。700名のデータについて、各項目に「6 非常に重要である」と回答した方向から6~1点を与えて得点化し、各尺度ごとに10項目の合計得点を求め、その中央値を基準に被検者を上位群と下位群の2群に分割し、それぞれの群ごとに各項目における回答の選択肢への反応度数をカウントして、 χ^2 検定を行った。この結果、いずれの尺度においても、各項目の χ^2 値は0.1%水準で有意であり、各項目とも十分な弁別力をもつことが明らかになった。

また、男女別に、各項目の平均と標準偏差を算出し、その性差を平均の差の検定(t検定)

新価値観尺度の開発

表1 価値観尺度(100項目)における各選択肢への反応率, 上位一下位分析, 男女別平均・SDと性差

項目内容	各選択肢への反応率 (N=700)						χ^2	平均とSDおよび性差	
	1	2	3	4	5	6		男子(N=368)	女子(N=332)
(I. 自己成長性)									
1. 仕事で成功すること	1.0	1.3	7.7	33.7	32.9	23.4	98.5	4.85(1.05)	>>> 4.46(0.94)
11. ものごとを計画的におこなうこと	1.9	3.4	17.9	36.9	28.1	11.9	116.4	4.29(1.14)	> 4.14(1.03)
21. はっきりとした目標をもつこと	0.4	1.6	6.0	21.4	36.9	33.7	198.6	4.93(1.08)	> 4.95(0.90)
31. 自分の能力を高めること	0.0	0.1	2.3	27.9	38.0	31.7	226.5	5.06(0.86)	> 4.91(0.80)
41. 自分の知識や技能を活用すること	0.1	0.7	5.1	29.0	38.7	26.3	223.8	4.82(0.96)	> 4.87(0.85)
51. 人間として成長すること	0.0	0.3	2.3	10.0	31.1	56.3	168.1	5.34(0.85)	< 5.48(0.70)
61. 自分の生活に満足すること	0.4	0.6	5.1	19.3	33.7	40.9	137.0	5.07(0.97)	> 5.09(0.94)
71. 自分の心を豊かにすること	0.0	0.1	2.3	13.1	35.3	49.1	180.5	5.19(0.83)	<<< 5.44(0.73)
81. 真実を追求すること	1.0	2.4	12.1	36.0	27.9	20.6	153.4	4.55(1.14)	> 4.42(1.01)
91. 新しいことを発見したり, 考えたりすること	0.6	0.4	6.7	32.1	34.3	25.9	154.9	4.76(1.02)	> 4.77(0.89)
(II. 社会的・経済的地位)									
2. 出世すること	2.4	5.4	26.1	39.0	15.7	11.3	219.0	4.18(1.20)	>>> 3.68(1.01)
12. 安定した収入があること	0.3	1.6	7.6	31.4	35.3	23.9	219.1	4.77(1.02)	> 4.65(0.93)
22. 経済的に豊かな生活をする	1.0	3.0	15.7	39.3	26.4	14.6	283.6	4.38(1.13)	> 4.23(0.96)
32. 他の人々を指導する地位につくこと	6.1	10.1	41.0	28.0	10.9	3.9	181.8	3.57(1.20)	>>> 3.19(0.99)
42. 将来に不安のない仕事をする	1.9	2.9	18.1	37.6	26.0	13.6	228.0	4.32(1.17)	> 4.15(1.01)
52. 昇進が早いこと	10.3	11.7	37.6	28.7	6.4	5.3	282.0	3.45(1.29)	>>> 3.03(1.10)
62. 金銭的な心配のないこと	0.7	1.3	10.3	37.9	28.0	21.9	264.4	4.65(1.06)	> 4.47(0.98)
72. 他の人々が従うような権威をもつこと	12.1	17.4	38.7	21.4	5.9	4.4	212.5	3.20(1.29)	>>> 2.88(1.13)
82. 高い収入を得ること	2.4	5.9	24.9	35.6	18.6	12.7	343.5	4.13(1.22)	>> 3.86(1.13)
92. 金持ちになること	5.6	8.9	27.3	32.7	15.6	10.0	334.3	3.85(1.36)	> 3.61(1.15)
(III. 自主性・自立性)									
3. 自分のことは自分で決定すること	0.1	0.4	1.9	9.0	37.3	51.3	144.9	5.37(0.82)	> 5.37(0.79)
13. 自分の思いどおりにできること	0.1	1.1	6.9	31.9	28.7	31.3	121.3	4.84(1.05)	> 4.79(0.93)
23. 自分なりの生き方をする	0.0	0.3	2.3	12.3	30.9	54.3	228.3	5.29(0.86)	< 5.45(0.73)
33. 自分の望むものを手に入れること	0.1	0.4	9.7	38.4	27.3	24.0	142.6	4.72(1.00)	> 4.56(0.93)
43. 他人の意見にまどわされないこと	0.3	1.4	7.1	29.4	37.7	24.0	196.7	4.74(1.02)	> 4.76(0.90)
53. 自分に責任をもつこと	0.1	0.3	3.7	13.6	35.0	47.3	177.9	5.22(0.90)	> 5.28(0.82)
63. 自分の力で問題を解決すること	0.3	0.3	3.1	23.7	40.7	31.9	258.5	4.98(0.90)	> 5.02(0.83)
73. 自分の信念や考えに忠実であること	0.6	1.3	6.1	27.7	34.9	29.4	278.0	4.85(1.05)	> 4.82(0.93)
83. 自分自身をコントロールできること	0.0	0.3	3.9	19.4	39.1	37.3	253.4	5.08(0.89)	> 5.10(0.83)
93. 自立すること	0.0	0.6	3.7	15.3	38.9	41.6	218.4	5.17(0.86)	> 5.17(0.85)
(IV. 活動性)									
4. 身体を使って活動すること	1.0	2.0	14.0	34.0	31.9	17.1	158.7	4.53(1.08)	> 4.36(1.01)
14. 運動やスポーツをすること	0.9	3.1	11.3	37.9	28.1	18.7	189.8	4.56(1.13)	> 4.34(0.99)
24. 自分の体力を使うこと	1.3	4.3	21.1	40.0	23.1	10.1	197.4	4.24(1.11)	>>> 3.94(0.98)
34. 一生懸命に活動すること	0.4	1.1	5.6	21.7	39.9	31.3	149.6	4.91(1.02)	> 4.95(0.89)
44. 社会的な活動に参加すること	1.6	5.3	22.9	43.6	20.1	6.6	118.5	3.85(1.09)	<< 4.06(0.93)
54. 新しいことに挑戦すること	0.3	1.1	5.4	28.4	37.1	27.6	200.2	4.88(1.01)	> 4.80(0.88)
64. 趣味やレジャーを楽しむこと	0.1	0.6	3.0	20.7	37.9	37.7	186.1	5.04(0.93)	> 5.14(0.81)
74. 危険でスリルのあることを体験すること	5.7	12.1	34.7	29.6	10.0	7.9	147.1	3.68(1.27)	>>> 3.29(1.15)
84. 変化のある暮らしをすること	1.4	4.4	25.4	35.4	20.6	12.7	152.1	4.10(1.17)	> 4.04(1.08)
94. さまざまな新しい経験をすること	0.0	0.4	5.4	26.0	34.7	33.4	202.9	4.97(0.96)	> 4.93(0.87)
(V. 対人志向性)									
5. 他の人々と一緒にものごとをすること	0.6	3.0	13.1	31.0	35.1	17.1	201.0	4.49(1.09)	> 4.48(1.00)
15. グループで活動すること	2.3	4.0	22.6	38.6	22.7	9.9	176.7	4.13(1.13)	> 3.97(1.07)
25. さまざまな人々とつきあうこと	0.3	1.4	4.6	22.1	34.0	37.6	214.8	4.95(1.04)	> 5.07(0.89)
35. 理解のある友人をもつこと	0.0	0.7	2.4	9.4	26.1	61.3	175.7	5.33(0.91)	<<< 5.58(0.67)
45. 他の人々を信頼すること	0.4	1.6	6.4	30.6	40.7	20.3	191.8	4.58(0.99)	<<< 4.84(0.87)
55. 他の人々に気配りができること	0.1	0.6	4.6	21.6	41.7	31.4	181.1	4.88(0.93)	<<< 5.10(0.81)
65. 友人に誠実であること	0.0	0.4	2.1	16.1	37.7	43.6	188.0	5.13(0.90)	<< 5.32(0.71)
75. 友人が多いこと	0.9	2.0	7.3	21.9	29.1	38.9	237.4	4.92(1.16)	> 4.94(1.03)
85. 他の人々と協調すること	0.7	2.0	9.3	40.3	33.4	14.3	203.5	4.48(1.00)	> 4.45(0.92)
95. 友人と一緒に時間を過ごすこと	0.3	1.4	7.6	27.4	41.7	21.6	210.2	4.66(1.01)	< 4.82(0.87)

< : p<.05, << : p<.01, <<< : p<.001

表1 (続き)

項目内容	各選択肢への反応率 (N=700)						χ^2	平均とSDおよび性差	
	1	2	3	4	5	6		男子(N=368)	女子(N=332)
(VI. 他者援助)									
6. 困っている人を助けること	0.9	1.0	5.0	34.9	35.9	22.4	223.9	4.66(1.06)	4.77(0.83)
16. 他の人々に心から親切にすること	0.6	1.1	7.3	30.9	34.3	25.9	218.4	4.71(1.07)	4.79(0.90)
26. 他の人々から頼りにされること	0.7	2.4	15.7	37.0	27.4	17.1	165.6	4.52(1.16)	>>> 4.26(0.91)
36. 他の人々にものを教えること	2.0	6.4	32.6	42.0	12.3	4.7	125.1	3.86(1.03)	>>> 3.53(0.92)
46. 他の人々を幸福にすること	0.7	3.6	14.3	36.1	28.9	16.4	242.3	4.32(1.12)	4.45(1.01)
56. 社会のために貢献すること	1.7	3.4	17.0	41.6	25.7	10.6	295.0	4.18(1.12)	4.17(0.97)
66. 他の人々を指導する力をもつこと	3.3	9.9	31.3	36.6	12.4	6.6	134.3	3.76(1.23)	>> 3.52(0.98)
76. 他の人々の役に立つ人間になること	1.1	2.1	11.7	36.1	32.0	16.9	296.8	4.45(1.11)	4.48(0.96)
86. 社会の幸福と平和のために尽くすこと	1.9	5.0	19.3	44.9	20.6	8.4	246.1	4.02(1.15)	4.03(0.93)
96. 他の人々のためになる仕事をする	1.4	4.0	16.1	45.0	23.1	10.3	280.0	4.13(1.09)	4.18(0.97)
(VII. 社会的評価)									
7. 他の人々から認められること	0.9	2.1	11.6	26.4	35.9	23.1	240.4	4.57(1.16)	4.71(0.97)
17. 自分のやりとげたことが高く評価されること	0.4	0.9	11.0	29.7	36.0	22.0	196.2	4.60(1.08)	4.73(0.88)
27. 多くの人々に名前を知られること	6.3	10.9	32.7	29.0	12.6	8.6	229.0	3.74(1.36)	>>> 3.37(1.12)
37. 他の人々からほめられること	3.0	4.4	26.4	41.0	17.1	8.0	254.7	3.88(1.16)	3.89(1.01)
47. 他の人々から尊敬されること	2.0	5.3	28.7	36.4	18.1	9.4	289.6	3.96(1.23)	3.87(0.96)
57. 有名になること	12.4	17.6	39.3	20.1	5.6	5.0	214.5	3.19(1.31)	>>> 2.87(1.14)
67. 重要な人物として認められること	3.1	8.4	27.1	36.3	15.4	9.6	319.1	3.86(1.23)	3.76(1.12)
77. 自分の能力が高い評価を受けること	2.6	4.3	22.3	36.4	22.1	12.3	305.0	4.08(1.22)	4.09(1.08)
87. 他の人々から注目されること	5.1	11.6	35.9	31.3	10.3	5.9	291.3	3.56(1.25)	3.39(1.05)
97. 自分の仕事为社会で認められること	2.3	4.0	17.6	38.3	24.9	13.0	261.1	4.21(1.17)	4.16(1.09)
(VIII. 異性関係・恋愛・結婚)									
8. 恋愛すること	0.9	2.1	7.9	19.4	31.9	37.9	174.8	5.02(1.14)	> 4.83(1.05)
18. 他の人々から愛されること	0.1	0.7	3.9	24.0	35.1	36.1	156.1	4.98(0.98)	5.06(0.85)
28. 子どもをもつこと	5.6	6.3	24.9	27.3	20.3	15.7	236.7	3.99(1.34)	3.95(1.37)
38. 結婚すること	5.3	7.4	21.4	26.6	21.7	17.6	324.0	4.09(1.40)	4.00(1.36)
48. 満足できる結婚生活をおくこと	4.6	4.6	12.0	24.0	27.9	27.0	305.8	4.35(1.39)	< 4.60(1.32)
58. 性的な魅力があること	6.7	11.9	26.9	32.0	12.4	10.1	189.2	3.90(1.36)	>>> 3.30(1.19)
68. 異性の友人をもつこと	0.9	1.6	8.3	35.9	30.9	22.6	159.6	4.65(1.12)	4.58(0.91)
78. 異性に人気があること	2.9	7.1	28.1	35.6	13.0	13.3	213.3	4.12(1.29)	>>> 3.63(1.06)
88. 魅力的な容姿であること	5.1	10.4	27.9	31.7	14.4	10.4	178.2	3.75(1.34)	3.67(1.21)
98. 家庭をもつこと	3.9	7.6	15.1	28.3	23.7	21.4	292.6	4.25(1.36)	4.24(1.34)
(IX. 教育・学歴)									
9. 高い学歴を得ること	5.6	7.4	37.7	34.9	9.7	4.7	241.2	3.48(1.17)	3.52(1.01)
19. 一生懸命に勉強すること	1.9	3.1	14.3	38.9	28.9	13.0	102.3	4.15(1.18)	<<< 4.43(0.94)
29. 学校でよい成績をとること	5.7	7.6	33.9	37.4	11.3	4.1	246.1	3.45(1.19)	< 3.62(1.00)
39. よい学校に入ること	9.9	12.6	38.3	27.9	8.0	3.4	321.9	3.15(1.22)	3.29(1.11)
49. 受験のために勉強すること	11.7	11.1	30.1	30.1	11.4	5.4	223.3	3.25(1.41)	< 3.46(1.17)
59. 他の人々よりすぐれた成績をとること	6.9	10.3	34.1	35.0	9.9	3.9	287.4	3.40(1.18)	3.44(1.08)
69. 有名な大学に進学すること	12.0	15.6	38.4	24.3	6.0	3.7	329.5	3.08(1.28)	3.08(1.12)
79. 勉強に時間をかけること	4.4	8.9	31.9	40.1	11.0	3.7	146.9	3.49(1.11)	3.63(1.00)
89. 試験でトップクラスの成績をとること	12.1	15.7	37.1	24.1	7.1	3.7	327.0	3.01(1.27)	< 3.19(1.16)
99. むずかしい学校に合格すること	16.6	20.0	34.6	20.0	6.0	2.9	323.2	2.87(1.31)	2.88(1.16)
(X. 健康)									
10. 健康に注意すること	0.7	0.7	3.3	20.4	27.9	46.9	296.4	5.14(1.06)	5.14(0.92)
20. 病気やケガをしないこと	0.4	1.1	6.3	21.1	30.3	40.7	263.4	5.04(1.08)	4.99(0.95)
30. 規則正しい生活をする	4.0	6.0	20.9	38.9	20.0	10.3	166.8	3.85(1.28)	<< 4.08(1.06)
40. 長生きすること	10.7	12.3	34.6	25.1	11.1	6.1	129.0	3.35(1.40)	3.29(1.19)
50. 身体をきたえること	1.0	3.0	15.0	40.4	25.7	14.9	160.9	4.49(1.05)	>>> 4.11(1.03)
60. 健康であること	0.3	1.3	4.6	19.0	25.6	49.3	315.2	5.14(1.06)	5.18(0.93)
70. ストレスに負けないこと	0.6	1.6	8.9	29.7	34.4	25.1	126.7	4.66(1.07)	4.76(0.97)
80. 健康を害するものをさけること	1.7	3.7	14.1	33.9	29.1	17.4	255.4	4.27(1.23)	< 4.48(1.02)
90. 身体をいたわること	0.6	2.4	10.7	32.9	31.9	21.6	314.3	4.57(1.11)	4.58(0.98)
100. 無理をしないこと	2.1	5.0	17.3	32.1	23.0	20.4	124.2	4.27(1.32)	4.34(1.12)

< : p<.05, << : p<.01, <<< : p<.001

新価値観尺度の開発

を用いて検討した。

まず、尺度ごとに回答の選択肢への反応をみると、「6 非常に重要である」の反応率が比較的高い項目が「I. 自己成長性」「III. 自立性・自主性」「V. 対人志向性」に多く見られ、現代青年がこのような価値を重視していることがわかる。とくに、「I. 自己成長性」の「51. 人間として成長すること」、「III. 自立性・自主性」の「3. 自分のことは自分で決定すること」「23. 自分なりの生き方をすること」では、いずれも「6 非常に重要である」と回答した率が50%を越えているほか、「V. 対人志向性」の「35. 理解のある友人をもつこと」では61.3%と、すべての項目の中で最も高い反応率を示している。

これとは逆に、「1 まったく重要でない」とした反応率をみると、10%を越えるものが「II. 社会的・経済的地位」のうち「52. 昇進が早いこと」「72. 他の人々が従うような権威をもつこと」の2項目、「VII. 社会的評価」のうち「57. 有名になること」の1項目に見られたほか、「IX. 教育・学歴」の「99. むずかしい学校に合格すること」「89. 試験でトップクラスの成績をとること」など4項目において10%を越える反応率を示しており、権威や地位、学歴に関する価値は、現代青年は重視しないことがうかがわれる。

性差に関しては、各尺度で違いが見られるが、性差の顕著な項目を検討してみる。

まず、「I. 自己成長性」に関しては、男子の「1. 仕事で成功すること」の平均が、女子に比較して0.1%水準で有意に高いのに対して、「71. 自分の心を豊かにすること」は、女子の方が0.1%水準で有意に高かった。「II. 社会的・経済的地位」では10項目のうち9項目で男子の平均が有意に高かったが、「III. 自立性・自主性」ではあまり性差は見られなかった。「IV. 活動性」では、男子の「24. 自分の体力を使うこと」「74. 危険でスリルのあることを体験すること」の平均が高かったが、「44. 社会的な活動に参加すること」では女子の平均が高かった。「V. 対人志向性」では10項目のうち5項目で女子の平均が高く、友人関係に関する価値は、女子の方が重視することがわかる。しかし、「VI. 他者援助」については、「26. 他の人々から頼りにされること」「36. 他の人々にものを教えること」では0.1%水準で、「66. 他の人々を指導する力をもつこと」では1%水準で、いずれも男子の平均が高く、援助関係にある対人的価値は男子の方が重視することが理解される。「VII. 社会的評価」では2項目に性差が見られ、「27. 多くの人々に名前を知られること」「57. 有名になること」という自己顕示性にかかわる項目で男子の平均が有意に高く、「VIII. 異性関係・恋愛・結婚」においても、「58. 性的な魅力があること」「78. 異性に人気があること」の2項目で男子の平均が0.1%水準で有意に高くなっており、男子の方がこのような価値を重視することが注目される。「IX. 教育・学歴」では、10項目のうち4項目で女子の平均が高いことが示されたが、これらの項目は「19. 一生懸命に勉強すること」「29. 学校でよい成績をとること」など、学歴志向というよりもむしろ学習に対する積極的な意欲や態度にかかわるものであるといえる。「X. 健康」

については、男子の「50. 身体をきたえること」が0.1%水準で有意に高かったが、「30. 規則正しい生活をする事」「80. 健康を害するものをさけること」では、いずれも女子の平均が有意に高かった。

以上のように、項目の平均値でみる限り、価値観には性差があることがうかがわれる。この点については、尺度を構成してから改めて検討する。

(2) 価値観尺度(100項目)の因子分析

男女を込みにした700名のデータをもとに、価値観尺度100項目の因子分析を行った。各項目ごとに「6 非常に重要である」と回答した方向から6～1点を与えて得点化し、項目間相関をピアソンの相関係数によって算出して、主因子法を適用して因子の抽出を行った。その結果、第10因子と第11因子の固有値に比較的大きな隔たりがあったので、第10因子で因子の抽出を打ち切り、主因子行列にバリマックス回転を行った。この10因子で全分散の55.28%を占める。それぞれの因子には、因子負荷量の絶対値が.40を越える項目を採択し、各因子に含まれる項目とその因子における因子負荷量を、寄与率とともに表2-1～表2-10に示した。また、2因子以上にまたがって.40以上の因子負荷量を示した項目は見られなかった。なお、表2-11には、いずれの因子にも因子負荷量の絶対値が.40を越えなかった項目をまとめた。

第1因子には、「63. 自分の力で問題を解決すること」「83. 自分自身をコントロールすること」など、「Ⅲ. 自主性・自立性」に属する項目が高い負荷量を示し、続いて「31. 自分を高めること」「71. 自分の心を豊かにすること」など「Ⅰ. 自己成長性」の項目が高い負荷量を示した。そのほか、「54. 新しいことに挑戦すること」「94. 新しい経験をすること」など「Ⅳ. 活動性」の3項目、「65. 友人に誠実であること」「55. 他の人々に気配りができること」という「Ⅴ. 対人志向性」の2項目が含まれている。これらの項目内容からみて、第1因子は『F1. 人間的成長』と解釈するのが適当であると考えられる。

第2因子は、「67. 重要な人物として認められること」に最も高い負荷量を示し、「Ⅶ. 社会的評価」に含まれるすべての項目が負荷している。さらに、「72. 他の人々が従うような権威をもつこと」「32. 他の人々を指導する地位につくこと」など「Ⅱ. 社会的・経済的地位」の3項目、「66. 他の人々を指導する力をもつこと」「36. 他の人々にものを教えること」など「Ⅵ. 他者援助」の3項目が負荷しており、これらはいずれも「権威」を表す項目であることがわかる。また、「Ⅷ. 異性関係・恋愛・結婚」に含まれる項目のうち、「78. 異性に人気があること」「88. 魅力的な容姿であること」「58. 性的な魅力があること」という「性的魅力」を表す3項目が、この第2因子に含まれている点も特徴的である。これらの結果から、第2因子は『F2. 社会的評価』と命名することができると思われる。

第3因子は、「Ⅵ. 他者援助」に含まれる6項目が高い負荷を示したほか、「Ⅳ. 活動性」の

新価値観尺度の開発

表 2-1 第 1 因子

項 目 内 容	負荷量
63. 自分の力で問題を解決すること	.70
83. 自分自身をコントロールできること	.68
93. 自立すること	.65
53. 自分に責任をもつこと	.64
73. 自分の信念や考えに忠実であること	.64
23. 自分なりの生き方をすること	.61
31. 自分の能力を高めること	.61
71. 自分の心を豊かにすること	.61
91. 新しいことを発見したり, 考えたりすること	.61
51. 人間として成長すること	.60
54. 新しいことに挑戦すること	.60
94. さまざまな新しい経験をすること	.60
41. 自分の知識や技能を活用すること	.55
43. 他人の意見にまどわされないこと	.54
34. 一生懸命に活動すること	.50
3. 自分ことは自分で決定すること	.48
65. 友人に誠実であること	.48
21. はっきりとした目標をもつこと	.46
70. ストレスに負けないこと	.45
33. 自分の望むものを手に入れること	.44
55. 他人々に気配りができること	.44
64. 趣味やレジャーを楽しむこと	.43
81. 真実を追求すること	.42
寄与率	9.50%

表 2-2 第 2 因子

項 目 内 容	負荷量
67. 重要な人物として認められること	-.78
77. 自分の能力が高い評価を受けること	-.70
87. 他人々から注目されること	-.67
7. 他人々から認められること	-.65
37. 他人々からほめられること	-.64
57. 有名になること	-.64
97. 自分の仕事が社会で認められること	-.64
47. 他人々から尊敬されること	-.63
27. 多くの人々に名前を知られること	-.61
17. 自分のやりとげたことが高く評価されること	-.60
66. 他人々を指導する力をもつこと	-.60
72. 他人々が従うような権威をもつこと	-.60
32. 他人々を指導する地位につくこと	-.58
78. 異性に人気があること	-.50
36. 他人々にものを教えること	-.48
88. 魅力的な容姿であること	-.48
52. 昇進が早いこと	-.47
58. 性的な魅力があること	-.47
1. 仕事で成功すること	-.45
26. 他人々から頼りにされること	-.41
寄与率	9.39%

表 2-3 第 3 因子

項 目 内 容	負荷量
56. 社会のために貢献すること	-.73
96. 他人々のためになる仕事をする	-.73
86. 社会の幸福と平和のために尽くすこと	-.72
76. 他人々の役に立つ人間になること	-.66
46. 他人々を幸福にすること	-.65
44. 社会的な活動に参加すること	-.63
6. 困っている人を助けること	-.61
16. 他人々に心から親切にすること	-.61
45. 他人々を信頼すること	-.53
85. 他人々と協調すること	-.50
寄与率	6.76%

表 2-4 第 4 因子

項 目 内 容	負荷量
39. よい学校に入ること	.79
69. 有名な大学に進学すること	.77
99. むずかしい学校に合格すること	.76
89. 試験でトップクラスの成績をとること	.71
9. 高い学歴を得ること	.64
49. 受験のために勉強すること	.64
59. 他人々よりすぐれた成績をとること	.63
29. 学校でよい成績をとること	.62
79. 勉強に時間をかけること	.52
寄与率	5.86%

表 2-5 第 5 因子

項 目 内 容	負荷量
90. 身体をいたわること	.76
20. 病気やケガをしないこと	.71
60. 健康であること	.71
10. 健康に注意すること	.70
80. 健康を害するものをさけること	.68
100. 無理をしないこと	.48
30. 規則正しい生活をする	.45
40. 長生きすること	.41
寄与率	4.90%

表 2-6 第 6 因子

項 目 内 容	負荷量
22. 経済的に豊かな生活をする	.75
82. 高い収入を得ること	.75
62. 金銭的な心配のないこと	.73
12. 安定した収入があること	.71
92. 金持ちになること	.65
42. 将来に不安のない仕事をする	.56
2. 出世すること	.50
寄与率	4.66%

表 2-7 第 7 因子

項 目 内 容	負荷量
38. 結婚すること	.79
98. 家庭をもつこと	.79
28. 子どもをもつこと	.74
48. 満足できる結婚生活をおくること	.74
8. 恋愛すること	.51
寄与率	3.94%

表 2-8 第 8 因子

項 目 内 容	負荷量
75. 友人が多いこと	-.55
95. 友人と一緒に時間を過ごすこと	-.52
15. グループで活動すること	-.51
5. 他の人々と一緒にものごとをすること	-.50
18. 他の人々から愛されること	-.48
25. さまざまな人々とつきあうこと	-.44
35. 理解のある友人をもつこと	-.43
68. 異性の友人をもつこと	-.42
寄与率	3.92%

表 2-9 第 9 因子

項 目 内 容	負荷量
4. 身体を使って活動すること	.64
24. 自分の体力を使うこと	.61
14. 運動やスポーツをすること	.56
50. 身体をきたえること	.50
寄与率	3.41%

表 2-10 第 10 因子

項 目 内 容	負荷量
74. 危険でスリルのあることを体験すること	-.64
84. 変化のある暮らしをすること	-.57
寄与率	2.94%

表 2-11 残余項目

項 目 内 容	負荷量
11. ものごとを計画的におこなうこと	—
13. 自分の思いどおりにできること	—
19. 一生懸命に勉強すること	—
61. 自分の生活に満足すること	—

うち「44. 社会的な活動に参加すること」の 1 項目と、「V. 対人志向性」のうち「45. 他の人々を信頼すること」「85. 他の人々と協調すること」の 2 項目、計 10 項目で構成される。この結果からみて、第 3 因子は『F 3. 愛他性』と命名することにした。

第 4 因子は、「IX. 教育・学歴」に含まれた項目のうち 9 項目が高い負荷を示しており、負荷量の高い項目には、「39. よい学校に入ること」「69. 有名な大学に進学すること」など、「学歴志向」を表す項目があげられる。したがって、第 4 因子は『F 4. 学歴尊重』と解釈するのが妥当であると考えられる。

第 5 因子は、「X. 健康」に属する 8 項目で構成されるので、『F 5. 健康性』と命名することにした。

第 6 因子は、「II. 社会的・経済的地位」に属する項目のうち、「権威」をその内容として含むために『F 2. 社会的評価』に負荷した 3 項目を除く 7 項目で構成される。この中には、「42. 将来に不安のない仕事をする事」のように職業的安定性を表す項目も含まれるが、「22. 経済的に豊かな生活をする事」「82. 高い収入を得ること」など「経済的安定性」に関する項目が中心であるので、第 6 因子は『F 6. 経済的安定性』と命名した。

新価値観尺度の開発

第7因子には、「Ⅷ. 異性関係・恋愛・結婚」のうち、「38. 結婚すること」「98. 家庭をもつこと」「28. 子どもをもつこと」など、結婚と家庭生活に関する項目が高い負荷を示し、異性関係・恋愛に関連する項目は、「8. 恋愛すること」1項目のみで、その因子負荷量も、他の項目に比較すると低かった。この結果からみて、第7因子は『F7. 家庭生活』と命名するのが適当であると考えた。

第8因子は、「75. 友人が多いこと」に最も高い負荷量を示し、「Ⅴ. 対人志向性」のうちの6項目が負荷したほか、「Ⅷ. 異性関係・恋愛・結婚」のうち「18. 他の人々から愛されること」「68. 異性の友人をもつこと」の2項目もこの因子に負荷した。この結果から考えて、第8因子はそのまま『F8. 対人志向性』と命名することにした。

第9因子は、4項目で構成され、「Ⅳ. 活動性」のうち「4. 身体を使って活動すること」「24. 自分の体力を使うこと」のように「身体的活動」に関する項目が負荷したほか、「Ⅹ. 健康」に属する「50. 身体をきたえること」もこれと同じ内容をもっていると考えられたので、第9因子は、『F9. 身体的活動』と命名することにした。

第10因子には2項目しか負荷しなかったが、いずれも「Ⅳ. 活動性」の項目のうち「変化志向性」を表す項目であるので、第10因子は『F10. 変化志向性』と命名するのが適当であると思われた。

以上の因子分析の結果から、現代青年の価値観には、「人間的成長」「社会的評価」「愛他性」「学歴尊重」「健康性」「経済的安定性」「家庭生活」「対人志向性」「身体的活動」「変化志向性」の10側面があると考えることができる。この因子構造を手がかりに、次に尺度の構成を行った。

(3) 新価値観尺度の決定と項目の選択

以上の因子構造を検討した結果、2項目しか負荷しなかった『F10. 変化志向性』を除外して、『F1. 人間的成長』を「自己成長性」と「自立性」の2側面に分けてとらえることとし、本研究では合計10尺度を設定することにした。

また、尺度の配列順は、当初の配列にしたがい、最終的には「Ⅰ. 自己成長性」「Ⅱ. 経済的安定性」「Ⅲ. 自立性」「Ⅳ. 身体的活動」「Ⅴ. 対人志向性」「Ⅵ. 愛他性」「Ⅶ. 社会的評価」「Ⅷ. 家庭生活」「Ⅸ. 学歴尊重」「Ⅹ. 健康性」の10尺度を採択した。

各尺度の項目の採択には、因子分析の結果と先の項目分析（反応率・男女別平均）の結果を総合して判断し、各因子における負荷量が高いこと、1つの尺度内で項目内容が重複しないことの2点を項目採択の基準とした。

各尺度の項目数は、できるだけ項目数が少ないほうが実施しやすいことを配慮して、各尺度とも4項目とし、内的一貫性（ α 係数）を算出した。項目一覧と α 係数は、表3に示した。なお、内的一貫性は α 係数が.72～.90となり、項目数が4項目と少ないことを考慮すれば、

表3 価値観尺度の項目と内的一貫性 (α 係数)

I. 自己成長性 $\alpha = .72$ 31. 自分の能力を高めること 51. 人間として成長すること 71. 自分の心を豊かにすること 91. 新しいことを発見したり, 考えたりすること	VI. 愛他性 $\alpha = .87$ 56. 社会のために貢献すること 76. 他の人々の役に立つ人間になること 86. 社会の幸福と平和のために尽くすこと 96. 他の人々のためになる仕事をする
II. 経済的安定性 $\alpha = .87$ 12. 安定した収入があること 22. 経済的に豊かな生活をする 62. 金銭的な心配のないこと 82. 高い収入を得ること	VII. 社会的評価 $\alpha = .84$ 7. 他の人々から認められること 67. 重要な人物として認められること 77. 自分の能力が高い評価を受けること 87. 他の人々から注目されること
III. 自立性 $\alpha = .74$ 53. 自分に責任をもつこと 63. 自分の力で問題を解決すること 73. 自分の信念や考えに忠実であること 93. 自立すること	VIII. 家庭生活 $\alpha = .90$ 28. 子どもをもつこと 38. 結婚すること 48. 満足できる結婚生活をおくこと 98. 家庭をもつこと
IV. 身体的活動 $\alpha = .83$ 4. 身体を使って活動すること 14. 運動やスポーツをすること 24. 自分の体力を使うこと 50. 身体をきたえること	IX. 学歴尊重 $\alpha = .89$ 39. よい学校に入ること 69. 有名な大学に進学すること 89. 試験でトップクラスの成績をとること 99. むずかしい学校に合格すること
V. 対人志向性 $\alpha = .74$ 5. 他の人々と一緒にものごとをすること 15. グループで活動すること 75. 友人が多いこと 95. 友人と一緒に時間を過ごすこと	X. 健康性 $\alpha = .86$ 10. 健康に注意すること 20. 病気やケガをしないこと 60. 健康であること 90. 身体をいたわること

十分に満足できる値であると思われる。

(4) 新価値観尺度 (10 尺度 40 項目) の因子分析

最終的に採択された 10 尺度 40 項目について, 男女を込みにした 700 名のデータを用いて, 因子分析を行った。項目間相関をピアソンの相関係数により算出し, 主因子法を適用して因子の抽出を行った結果, 固有値が 1.0 を越える因子が 9 因子抽出された。なお, 試みに 10 因子までを抽出してバリマックス回転を行ってみたが, 第 10 因子に含まれる項目の因子負荷量と寄与率はきわめて低かった。そこで, 9 因子の因子行列に対してバリマックス回転を行い, その因子負荷量を項目とともに示したものが表 4 である。この 9 因子で, 全分散の 67.42% を占める。

この結果をみると, いずれの項目も各因子に対してその絶対値が .60 以上の高い負荷を示しており, きわめて明快で単純な因子構造であることがわかる。第 1 因子には, 「I. 自己成長性」の 4 項目と「III. 自立性」の 4 項目の計 8 項目が負荷し, 第 2 因子以下は, 「VIII. 家庭生活」「IX. 学歴尊重」「VI. 愛他性」「II. 経済的安定性」「X. 健康性」「IV. 身体的活動」「VII. 社会的評価」「V. 対人志向性」の順で, 各尺度に含まれる 4 項目が高い負荷を示している。

新価値観尺度の開発

表4 新価値観尺度40項目の因子分析 (N=700)

No. No.	項目	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	h ²
13. 63.	自分の力で問題を解決すること	.70	-.03	.04	.03	-.10	.01	.14	-.06	.06	.53
33. 93.	自立すること	.69	.03	.02	.05	-.09	.07	.08	.01	-.05	.50
3. 53.	自分に責任をもつこと	.68	-.11	-.03	.08	-.04	.12	.17	.10	-.07	.54
11. 51.	人間として成長すること	.67	-.10	-.08	.12	.00	.13	.07	-.03	-.08	.51
23. 73.	自分の信念や考えに忠実であること	.66	.09	-.03	.14	-.02	.07	.02	-.09	-.05	.48
21. 71.	自分の心を豊かにすること	.65	-.16	-.00	.11	-.06	.12	-.05	-.02	-.14	.50
1. 31.	自分の能力を高めること	.62	.09	-.08	.06	-.06	.07	.07	-.28	-.00	.50
31. 91.	新しいことを発見したり、考えたりすること	.61	.04	.14	.10	-.03	.14	.10	-.18	-.14	.49
38. 98.	家庭をもつこと	.05	-.87	-.10	.14	-.09	.12	.05	-.08	-.11	.83
18. 38.	結婚すること	-.03	-.85	-.12	.06	-.10	.15	.08	-.14	-.08	.80
8. 28.	子どもをもつこと	.03	-.81	-.06	.19	-.08	.10	.13	-.03	-.11	.74
28. 48.	満足できる結婚生活をおくこと	.10	-.80	-.18	.11	-.14	.08	.03	-.11	-.10	.74
39. 99.	むずかしい学校に合格すること	-.01	-.09	-.86	.04	-.11	.01	.04	-.17	-.01	.80
19. 69.	有名な大学に進学すること	-.02	-.08	-.85	.02	-.19	.07	.05	-.16	-.03	.80
9. 39.	よい学校に入ること	-.03	-.16	-.84	.05	-.20	.06	.01	-.10	-.03	.78
29. 89.	試験でトップクラスの成績をとること	.02	-.11	-.72	.14	-.19	-.01	-.00	-.29	-.07	.68
26. 86.	社会の幸福と平和のために尽くすこと	.22	-.12	-.03	.80	.04	.08	.15	-.10	-.06	.74
36. 96.	他の人々のためになる仕事をする	.17	-.09	-.08	.80	-.02	.13	.11	-.15	-.19	.77
6. 56.	社会のために貢献すること	.12	-.20	-.04	.79	.01	.10	.21	-.09	-.04	.74
16. 76.	他の人々の役に立つ人間になること	.24	-.11	-.09	.70	-.07	.07	.07	-.22	-.21	.67
12. 22.	経済的に豊かな生活をする	.05	-.13	-.14	.05	-.82	.09	.07	-.15	-.06	.76
22. 62.	金銭的な心配のないこと	.16	-.08	-.17	-.05	-.82	.10	.01	-.14	-.02	.76
32. 82.	高い収入を得ること	.10	-.08	-.28	.03	-.79	.03	.04	-.22	-.01	.77
2. 12.	安定した収入があること	.09	-.19	-.20	-.02	-.74	.20	.05	.00	-.06	.68
20. 20.	病気やケガをしないこと	.16	-.12	-.04	.05	-.13	.80	.12	-.03	-.03	.71
10. 10.	健康に注意すること	.08	-.14	.09	.11	-.13	.79	.17	-.07	-.15	.74
30. 60.	健康であること	.29	-.14	-.03	.09	-.04	.78	.13	-.00	-.07	.75
40. 90.	身体をいたわること	.20	-.12	-.06	.18	-.09	.74	.15	-.01	-.10	.67
4. 4.	身体を使って活動すること	.07	-.08	.04	.18	.01	.05	.79	-.07	-.14	.69
24. 24.	自分の体力を使うこと	.14	-.04	.02	.19	-.06	.13	.79	-.07	-.14	.73
14. 14.	運動やスポーツをすること	.08	-.10	-.02	.08	-.08	.21	.75	-.06	-.25	.70
34. 50.	身体をきたえること	.22	-.03	-.14	.04	-.06	.34	.64	-.09	-.04	.61
17. 67.	重要な人物として認められること	.15	-.10	-.23	.21	-.15	.05	.04	-.77	-.06	.75
27. 77.	自分の能力が高い評価を受けること	.19	.02	-.24	.18	-.25	.05	.01	-.75	-.06	.75
7. 7.	他の人々から認められること	.06	-.21	-.12	.07	-.08	.06	.03	-.72	-.14	.62
37. 87.	他の人々から注目されること	.05	-.15	-.28	.23	-.08	-.03	.20	-.66	-.08	.65
35. 95.	友人と一緒に時間を過ごすこと	.33	-.12	.02	.08	-.02	.04	.05	-.09	-.70	.63
25. 75.	友人が多いこと	.23	-.15	-.04	.07	-.16	.06	.10	-.15	-.69	.61
15. 15.	グループで活動すること	-.07	-.11	-.08	.20	-.02	.19	.35	-.07	-.66	.67
5. 5.	他の人々と一緒にものごとをすること	.01	-.08	-.05	.26	.05	.19	.29	-.04	-.62	.58
寄与率 (%)		10.44	8.09	8.04	7.32	7.30	7.29	6.90	6.66	5.38	67.42

したがって、「Ⅰ. 自己成長性」と「Ⅲ. 自立性」は密接に関連するものの、それ以外の尺度は、比較的独立した内容をもつものと考えられる。

(5) 新価値観尺度の性差と構造

新価値観尺度 (10 尺度) について、男女別に各尺度の平均と標準偏差を求め、その性差を平

表5 新価値観尺度の平均とSDおよび性差

尺 度	男子 (N=368)		女子 (N=332)
I. 自 己 成 長 性	20.35 (2.62)		20.61 (2.33)
II. 経 済 的 安 定 性	17.94 (3.80)	>>	17.20 (3.38)
III. 自 立 性	20.22 (2.79)		20.29 (2.61)
IV. 身 体 的 活 動	17.83 (3.47)	>>>	16.75 (3.32)
V. 対 人 志 向 性	18.20 (3.37)		18.21 (2.92)
VI. 愛 他 性	16.78 (3.86)		16.86 (3.14)
VII. 社 会 的 評 価	16.07 (4.09)		15.94 (3.35)
VIII. 家 庭 生 活	16.69 (4.83)		16.80 (4.75)
IX. 学 歴 尊 重	12.11 (4.46)		12.44 (3.92)
X. 健 康 性	19.90 (3.71)		19.90 (3.10)

<<: p<.01, <<<: p<.001

表6 新価値観尺度の因子構造 (N=700)

	F1	F2	F3	h ²
I. 自 己 成 長 性	.266	.126	.860	.826
II. 経 済 的 安 定 性	.062	.751	.186	.603
III. 自 立 性	.190	.063	.890	.832
IV. 身 体 的 活 動	.761	.038	.154	.604
V. 対 人 志 向 性	.772	.128	.117	.626
VI. 愛 他 性	.647	.217	.236	.522
VII. 社 会 的 評 価	.262	.718	.199	.624
VIII. 家 庭 生 活	.546	.455	-.138	.515
IX. 学 歴 尊 重	.051	.845	-.076	.722
X. 健 康 性	.627	.106	.284	.485
寄 与 率 (%)	24.68	20.88	18.04	63.60

均の差の検定 (t検定) を用いて検討した結果を表5に示した。

性差が認められたのは、「II. 経済的安定性」($t_{(698)} = 2.71, p < .01$), 「IV. 身体的活動」($t_{(698)} = 4.18, p < .001$) であり、いずれも男子の平均が有意に高く、男子の方が「経済的安定性」「身体的活動」を重視することがわかる。しかし、他の8尺度には性差が認められず、新価値観尺度で見ると、現代青年の価値観にそれほど大きな性差はないものと考えられる。

また、新価値観尺度の構造を検討するために、男女を込みにした700名のデータを用いて、10尺度の因子分析を行った。尺度間相関をピアソンの相関係数によって算出し、主因子法を適用して因子の抽出を行ったところ、固有値1.0以上の因子が3因子抽出されたので、この因子行列にバリマックス回転を行った。各尺度ごとの因子負荷量は、表6に示した。

第1因子は、「V. 対人志向性」「IV. 身体的活動」に.75を越える負荷を示し、これに「VI. 愛他性」「X. 健康性」「VIII. 家庭生活」が加わった構成となっている。これらの尺度の内容から考えると、この第1因子は、「対人関係」と「運動・健康」にかかわる因子であると解釈することができよう。第2因子は、「IX. 学歴尊重」に最も高い負荷を示し、「II. 経済的安定

新価値観尺度の開発

性」「VII. 社会的評価」がこれに加わった構成となっている。さらに、因子負荷量は比較的低いが、「VIII. 家庭生活」もこの因子に寄与している。したがって、この第2因子は高学歴、経済的な豊かさ、安定した家庭生活などに関連する「社会的評価」を表す因子であると解釈できる。第3因子は、「自立性」「自己成長性」の2尺度から構成され、先に命名した「人間的成長」を表す因子であるといえる。

以上の結果から、新たに構成した新価値観尺度（10尺度40項目）は、それぞれの尺度が比較的独立した内容をもちながら、大きく3つの領域に集約されるものと推定される。

本研究では、現代青年の価値観を測定する尺度を新たに開発した過程を報告した。今後の研究の課題としては、まず他の測度（既存の価値観尺度、パーソナリティ検査、態度検査など）と併存的に実施して、新価値観尺度の妥当性を検討することを考えたい。さらに、この尺度を用いて、現代青年の価値観が、彼らの日常生活における行動様式にどのような影響を及ぼすかについて検討を進めたい。

〈文 献〉

- Braithwaite, V. A., & Scott, W. A. 1991 Values. In Robinson, J. P., Shaver, P. R., & Wrightsman, L. S. (Eds.) *Measures of Personality and Social Psychological Attitudes*. Academic Press.
- 石川 啓 1971 価値観の構造と日米学生間の比較—因子分析的研究 関西大学経済・政治研究所「調査と資料」第20号、『日本人の価値観の構造と変容』, 17-38.
- 井上知子・三川俊樹・芳田茂樹 1993 価値観測定の研究と方法についての文献展望 『追手門学院大学文学部紀要』, 27, 1-19.
- 三川俊樹 1990 ライフ・キャリアの視点からみた役割受容 『進路指導研究』, 11, 10-17.
- 三川俊樹 1991 日本の青年における職業（労働）価値観 『カウンセリング研究』, 24, 27-36.
- 中西信男・三川俊樹 1988 職業（労働）価値観の国際比較に関する研究 一日本の成人における職業（労働）価値観を中心に 『進路指導研究』, 9, 10-18.
- Nevill, D. D., & Super, D. E. 1986 *The Values Scale: Theory, Application, and Research (Manual)*. Consulting Psychologists Press.
- Super, D. E., & Nevill, D. D. 1986 *The Values Scale*. Consulting Psychologists Press.

〈付記〉

本研究は、平成4年度文部省科学研究（総合研究A：課題番号04301010、代表：秋葉英則 大阪教育大学教授）の一部として行ったものである。

1993年9月30日 受理